

アメリカ相互関税問題におけるタイの動向 2025 年 8 月

タイにおける相互関税率は近隣 ASEAN 各国（インドネシア、マレーシア、フィリピンおよびカンボジア）と同じ 19%にて決定しましたが、米側に迂回輸出と判断されると、40%の高関税を課されてしまう、という問題が残っています。タイ政府の情報筋によると、迂回輸出の判断基準となる現地調達率もしくは域内原産割合（RVC）について、タイは 40%を提案したが、米国は 60%を求めているという状況との事です。

「タイのメディカルツーリズム」

大阪・関西万博のタイパビリオンは「VIMANA THAI（ヴィマン・タイ）」と名付けられ、「大きな幸福のため、いのちをつなぐタイ（THAILAND Connecting Lives for Greatest Happiness）」をコンセプトに伝統医療、ウェルネス、食文化、自然資源を含む「総合的な健康の国」としてのブランドを世界に発信するものとなっています。なぜこのコンセプトを採用したのかというやはり国家として「メディカルツーリズム」産業を成長させたいという狙いがあります。そこで今回はタイにおけるメディカル（医療）ツーリズムの現状についてレポートします。

まず、タイは次の要因もあり総合的に世界で最もメディカルツーリズムに適性のある国の 1 つとされています。

- ・美容整形、歯科、心臓治療、整形外科、不妊治療など幅広い医療が提供できる事で知られており、治療の価格は欧米諸国と比較すると 30%~70%安い
- ・バンコクでは多くの病院が JCI という国際医療認証を取得し、医師も欧米研修経験者が多く英語対応体制が整っており信頼性が高い
- ・そもそも観光先として非常に人気が高い

そのため、政府による戦略的支援も活発となっています。メディカルツーリズム認定病院制度、ビザ緩和措置、観光と医療の融合パッケージなどが推進されており、長期的にタイ経済を牽引する事業として設定されています。

ちなみに、現状タイのメディカルツーリズムで最も人気があるのは歯科治療で、医療ツーリズム顧客全体の約 4 割を占めているとのことです。しかしながら、近年では癌治療、心臓血管治療、不妊治療などの高度医療も拡大しています。

実際にメディカルツーリズムの拠点となっている Bumrungrad International Hospital（バムルンград病院）を見学すると、中東の富裕層と思われる受診者等でごったがえしており、驚かされます。それに合わせて病院の近隣地域自体に飲食店や小売店も増加しており、確実に経済効果をもたらしているようです。そういった観点でもタイにおけるヘルスケア市場は独自の大きな成長を遂げる可

能性が高いといえますが、同時に医療技術や従事者の不足という課題も顕在化しています。日本の医療や関連技術を求める潮流にあることは想像に難くありません。



↑大阪・関西万博タイパビリオンに訪問してきました。

コンセプト以外に大きな工夫はみられなかったものの、そもそも発信できる内容が多い国である事は有利であると感じました。